

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 聖ウルスラ学院英智小・中学校
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）
所在地 〒 984 - 0827 ※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
仙台市若林区一本杉町1番2号
E-mail teachers@st-ursula.ac.jp
Website <http://www.st-ursula.ac.jp>
幼児児童生徒数 男子 186 名 女子 294 名 合計 480 名
幼児・児童・生徒の年齢 7 歳～15 歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

それぞれの仕事が持続可能な社会を構成するためにどのように役立っているか。どのような仕事をすれば、持続可能な社会を作ることができるのか。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は「キリスト教的人間観の育成」を学校理念として、ESDを自然環境の維持や異文化理解を目標とする教育と捉え、ESDの実践を通して現代社会の課題を解決しようと行動する態度の育成を目標とした。

具体的には環境を柱に、生物多様性に関わる学習を行った。

○生物多様性に関わる学習

(1) 実践の経緯

本校の所在地は仙台市の住宅街に存在し、地表がアスファルトやコンクリートでおおわれているため、野生の生物が生息しにくい環境である。そのため、小学校の生活科や理科で扱う昆虫類や節足動物などの生き物が少ない。

これらの問題を解決するため、理科部会主導でバタフライ計画を実践している。主にチョウの幼虫が食べる植物を栽培し、チョウを呼び込むことを目的とした計画である。昨年度は本校敷地内の花壇でキャベツを育てたり、サンショウの木を植えたりして、モンシロチョウやアゲハチョウを呼び込むことに成功した。

今回は2年生でチョウの体のつくりと育ち方を学習する中で、バタフライ計画で呼び込んだチョウを教材として活用した。

(2) 目標

- ・生物の成長過程と体のつくりを比較する能力を育てる
- ・チョウを観察し、疑問に思った点を自ら調べる態度を養う

(3) 実践内容

- ・チョウの育ち方を理解する

キャベツ畑から見つけた卵や幼虫を教室内で飼育した。体のつくりを観察させたり、孵化や羽化の瞬間を観察するために定点カメラで一日中撮影した動画を見せたりした。

両クラス合わせて20匹以上のチョウを育てる中で、うまく育たない例も見られた。なぜうまく育たなかったのか授業の中で考え、飼育の仕方を改善する様子も見られた。

- ・学んだことをポスターにまとめ、発表する

チョウの育ち方を、「たまご」「幼虫1」「幼虫2」「さなぎ」「成虫」といった成長過程ごとに担当を決めてまとめた。発表はポスターのほかに、チョウの羽化の様子を撮影した動画も用いた。公開研究会では代表児童が発表を行った。

(4) 成果と課題

児童はチョウを卵から育てる実体験から様々な発見をし、疑問点を自ら図鑑や虫に関する本で調べる様子が見られた。また、国語科で行った違いを比較する学習と関連付けて実践できた。

課題としては、チョウは決まった植物以外を食べないことから、生物の多様性を守るためには環境を守ることの大切さに気付かせることができたのではないかと考える。次年度以降の活動に活かしていきたい。



(3) の写真



② の写真 (キャプション)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input checked="" type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

書籍 昆虫のかいかたそだてかた (文: 三枝博幸 絵: 松原巖樹 岩崎書店) ぼくの庭にきた虫たち②アゲハチョウ観察記 (著: 佐藤信治 農文協) 科学のアルバム モンシロチョウ (著: 矢島稔 あかね書房) 科学のアルバム アゲハチョウ (文: 本藤昇 写真: 佐藤有恒 あかね書房)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

当校では1年生から9年生まで、学年ごとに特色ある宿泊学習や行事がある。そのため、ユネスコスクールの活動を宿泊学習や行事に関連させて、授業の中で行うように設定している。毎年、11月には本校で公開研究会（授業公開）を開催しており、そのプログラムの中で本校児童生徒が来場者に向けてポスター発表を行っている。発表内容は各学年で行ったユネスコスクールの活動をまとめたものである。来場者の評価や各担任、授業担当者が児童生徒のポスター発表を振り返る際に指導内容や指導方法を改善している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

当校ではユネスコ部会という公務分掌が存在している。このユネスコ部会の主導で、年度初めに1年生から9年生の各学年でユネスコスクールの活動を計画し、年度途中には各学年で進捗状況を報告し活動を改善する研修を二回行っている。また、前出の公開研究会での児童生徒によるポスター発表を行っているため、1年生から9年生までのすべての学年でユネスコスクールの活動のまとめを行う機会を設けている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

内部評価としては、年度末に前出のユネスコ部会や研究部会の主導で、各学年にユネスコスクールの活動について振り返りを行うようにしている。また、外部評価としては、前出の公開研究会の来場者による、児童生徒のポスター発表への評価を外部評価として扱っている。成果としては、ポスター発表の準備や発表の様子から児童生徒が学んだ内容について細部まで理解し、相手に伝わりやすいように工夫できるようになっている点である。課題としては、学年によって取り組みの深度に差ができてきている点である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

発信方法としては公開研究会の来場者に1年生か9年生がそれぞれに活動した内容を発表した。発表にあたっては、内容をまとめたポスターを作成し、そのポスターを利用して児童生徒が説明するという形態である。この発信によって得られた効果は2つある。1つ目は児童生徒がこれまでに学習したことを復習する機会となることである。2つ目は来場者の評価によって、教員の指導方法を改善できる点である。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

当校では外部団体での教員の研修や専門機関の協力によって、学校以外の団体とネットワークを形成している。バタフライ計画では宮城教育大学の田幡先生にご指導いただきながら実践している。また、みやぎESD研究会に参加し、他の学校の実践を学び、他団体の方々と連絡をとれるようにして、ネットワークを形成している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

ユネスコスクールとの交流は児童間の交流会と、教員の研究会での交流がある。児童間の交流会は、ユネスコスクールの新庄小学校と5年以上行っている。その交流会では互いに学校の特徴を紹介し合い、学習してきた内容を交流する活動を行っている。教員の研究会での交流に関しては、前述のみやぎESD研究会に参加する中でユネスコスクールの教員が集まり、実践の報告や相談を通してネットワークの構築や新たな指導方法の共有が行われている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールの活動の効果としては、教員同士のコミュニケーションが増えたことと、それぞれの教員が担当する学年、教科以外の内容について深く理解するきっかけとなったことである。校内のESD研修を通して、他の教科と協力して授業を進めたり、他の学年の活動内容を一緒に考えたりする機会をつくることができた。これによって、前の学年で、もしくは後の学年で学習する内容を考えて授業を進めたり、他の教科で学習している内容と絡めて授業したりできるようになった。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

これまでに培ったESDの活動経験を生かし、「人権・平和」の分野での活動を推進したいと考えている。近年、「いじめ」が深刻な社会問題として取り上げられており、学校現場としても、児童・生徒の関心としても、一人の人間が保障されるべき人権は、考える価値の非常に高い内容であるからである。また、当校はミッションスクールであり、「キリスト教的人間観に基づく人格の形成」を教育目的としている。キリスト教において我々人間は、皆等しく神に愛されて生まれてきた存在であり、互いに愛し合うべきものである。当校で学び卒業した児童・生徒一人ひとりが、当校の学校理念を踏まえ、世の中において愛を実行し、他者と手と手を取り合うことを主体的に行っていければ、それはまさに「持続可能」な社会の形成に他ならない。以上のように、今年度は「人権・平和」の中でも特に「人権」の分野でESDの活動に取り組んでいきたい。